

知ってる？ 共有品って、 何だろう？



町へ出て考えてみよう！

← かわ
こちら側から読んで真ん中まで行ったら、反対側からも読んでね。 →

共有品って、 何だろう？



お家の中で考えてみよう！

← かわ
こちら側から読んで真ん中まで行ったら、反対側からも読んでね。 →

家族の中でも、一人一人、 いろいろな違いがあるんだね。

ケンタくんの家族がせいぞろい。

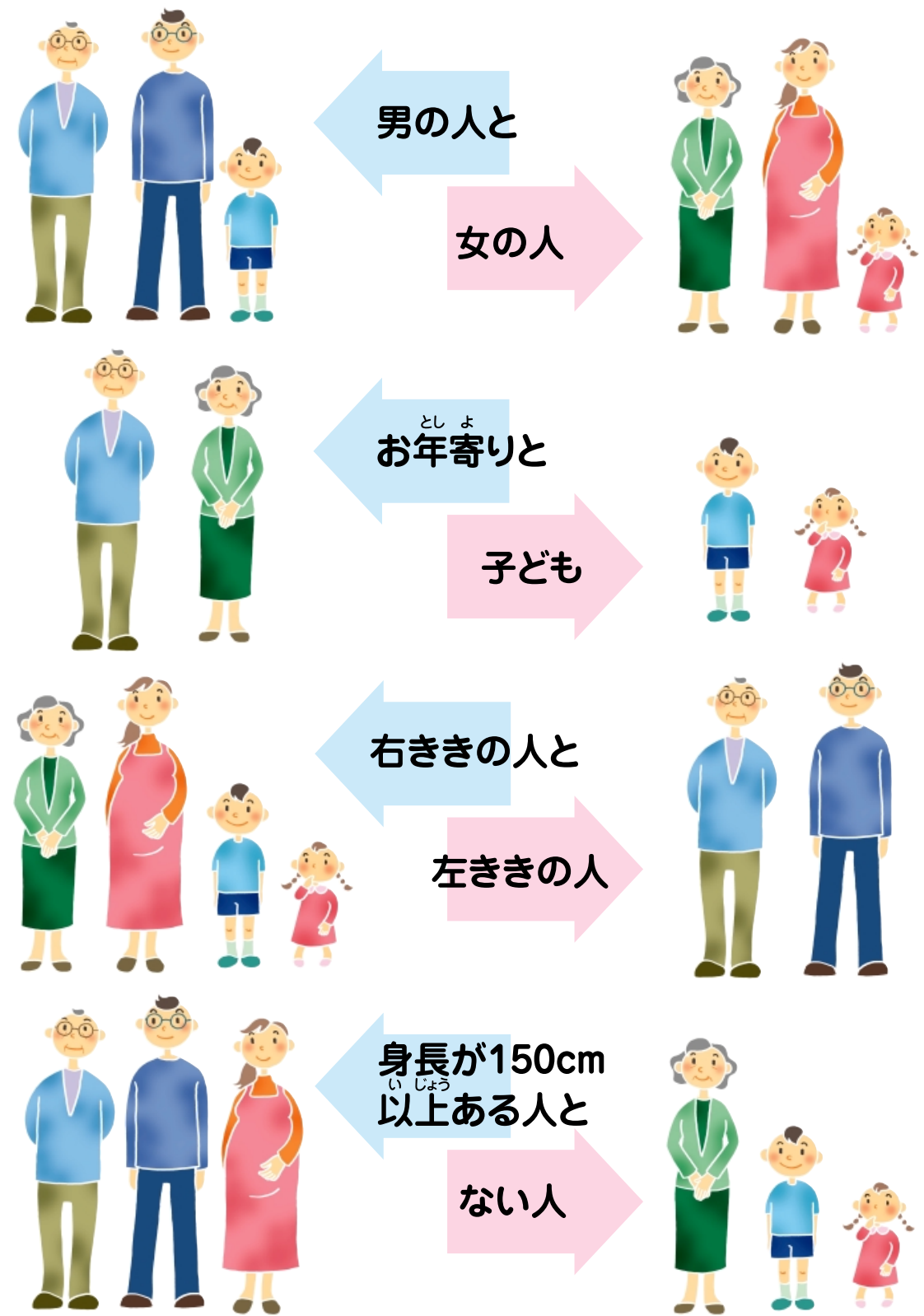
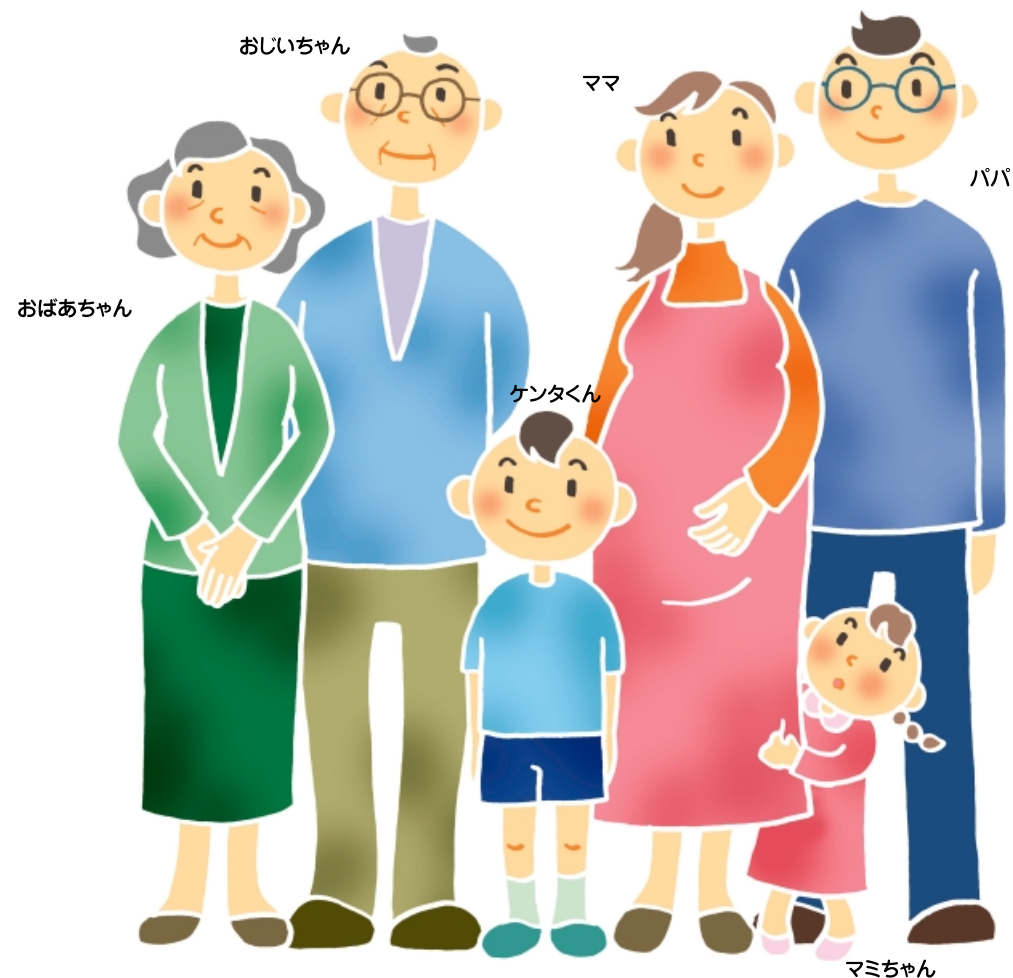
ママのおなかの中には、赤ちゃんもいるよ。

男の人と女の人、お年寄りとしよと子どもたち…。

いろんな人たちがいて、いろいろな個性こせいがあるけれど、

一人ひとりとして同じ人はいないよね。

「共用品」って何かを考えると、このことに気がついているかどうか、
とても大切なんだよ。



先生方やお家の方へ

この冊子は、どちらからでも読み進めることができます。こちら側からは、障害がない人たちも様々な特性をもっており、様々な特性をもった人たちが社会が構成されていることからアプローチしています。反対側からは障害のある人の不便さを知ることからはじめ、真ん中で共用品の意義を説明しています。

ケンタくん一家は、それぞれ こんなことで困っているよ。

家族でも一人一人違うから、困っていることも違うんだ。
でも、ちょっと工夫すれば、困ることも少なくなるかも知れないよ。
みんなでいっしょに使ったり、遊んだりできるかも知れないよ。

ママが困っていること



赤ちゃんがいて、
おなかが大きくなっているから

足元が見えにくくて
階段がこわい

ケンタくんやマミちゃんが困っていること



背が低いから

高いところにある
モノが取りづらい

目を開けられないから

よくシャンプーとリンスを
間違えてしまう

おじいちゃんやおばあちゃんが困っていること



手の力が弱いから

カンやビンのフタが
うまく開けられない



耳が聞こえにくいから

テレビの音が
よく聞こえない

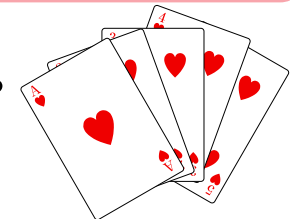
パパが困っていること



左ききなので、ちょっと

みんなと
トランプがしづらい

左ききだと
数字が消える



先生方やお家の方へ

異なる特性をもった家族の、それぞれ困っている点をあげました。一人一人が違うということから、ある人には平気なことでも、困ってしまう人がいることに気付かせてあげましょう。この点に気付くことが、「共用品」を知る基本になります。

町には、いろいろな障害のある人たちがいるよ。



ケンタくと妹のマミちゃんは、ママと一緒に電車でお買い物。すると、もうすぐ赤ちゃんが生まれるママのために、みんなが席をゆずってくれたんだ。次の駅で、白いつえをついた人が乗ってきて、ママに聞くと、目の不自由な人なんだって……。それで、ケンタくとマミちゃんは席を立て、空いている席を知らせてあげたよ。でも、障害のある人って、どんなことで困っているの……？

目の不自由な人

白いつえをついている人が多いよ。



足の不自由な人

車いすを使っている人もいるよ。



耳の不自由な人

耳には補聴器をつけていたり、手の動きでお話(手話)している人がいるよ。



先生やお家の方へ

この冊子は、どちらからでも読み進めることができます。こちら側からは、障害のある方の不便さを理解することからアプローチし、反対側からは障害はなくても人にはさまざまな特性があるということから始め、真ん中で共用品の意義を説明しています。

障害のある人たちは、 それぞれこんなことで困っています。

障害のない人にはわかりづらいけれど、
 こんなにも困っていることがあるんだ。
 障害のある人の気持ちになって、
 どうすれば困らなくできるか、考えてみようよ。
 みんなで使えて、みんながうれしくなるモノや、
 みんなに便利な道具や乗り物があると
 いいかも知れないね。



足の不自由な人が困っていること

大きな段差があると前に進めない
 無理な体勢がとれない
 高い所へ手が届かない



目の不自由な人が困っていること

モノがどこにあるのかわからない
 モノがどこにがあるのかわからない
 行き先、方向がわからない
 どんなモノなのかわからない
 どんな状況なのかわからない



耳の不自由な人が困っていること

電車やバスのアナウンスが聞こえない
 名前を呼ばれても気づかない
 危険な状況にも気がつかない



先生やお家の方へ

様々な障害のある人たちが、それぞれ困っている点をあげました。様々な人たちが困っている点を知ることは、より多くの人に使いやすい「共用品・共用サービス」について考えるための基本です。自分とは違う人のことを知り、その人のことを考える気持ちを育むよう、ご指導ください。

いろいろな人がこま困っていることに気づいたら、 みんなですれればいいか、考えてみようよ。

子どもたちやおじいちゃん、おばあちゃん、しょうがい障害のある人たち…。
いろいろな人たちが、それぞれ、ひつよう必要なモノを使っているけれど、
こま困ったこともいっぱいあるみたいだね。

みんながこま困っていることと、それをなくそうと いう気持ちやアイデアを持ち寄ってみると…。



ここではみんなの周りまわにある普通ふつうのモノを
いっばんせいひん
一般製品いっばんせいひんといってるよ。

一般
製品

福祉
用具

しょうがい障害のある人や介護かいごが必要な人専用せんように作られたものを
ふくしょうぐ
福祉用具ふくしょうぐというんだよ。

「共用品」には、こんな工夫がされているよ。

みんなの周りの、いろいろなところで、「共用品」が使われているよ。
どんな工夫がされているか、見てみようね。

手でさわった感じで
リンスとの違いがわかる工夫

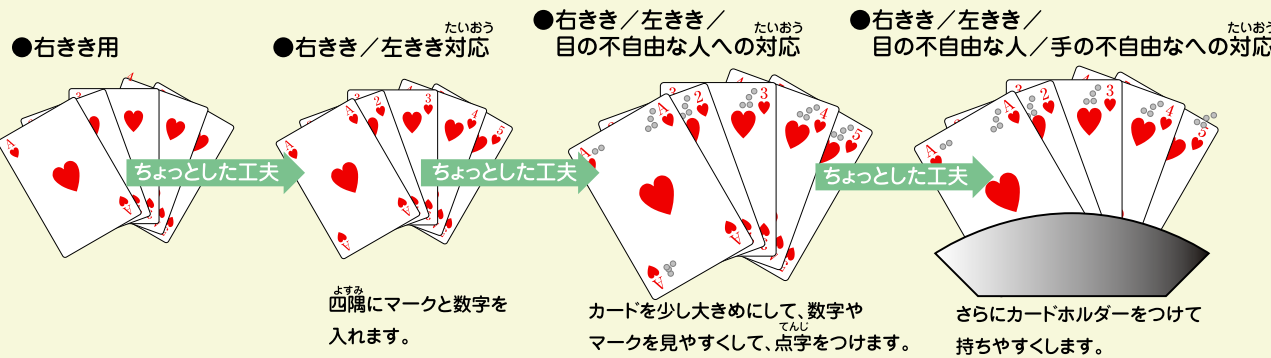
力が弱くなった
おばあちゃんも開けやすい工夫

開けやすいカンやビン、
容器など

シャンプー容器のギザギザや
牛乳パックの「切り欠き」



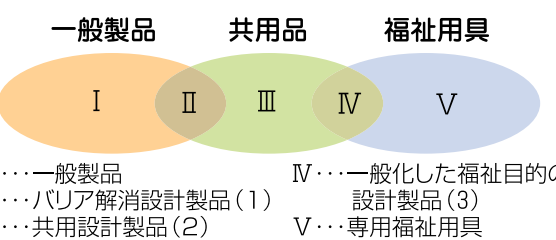
例えば、「共用品」のトランプなら、みんなでいっしょに遊べるよ!



先生やお家の方へ

「身体的な特性や障害にかかわらず、より多くの人々が共に利用しやすい製品・施設・サービス」が「共用品・共用サービス」の定義であり、次の三者を包括する概念ともされています。

- 一般製品の利用上の不都合をなくすバリア解消設計
- 初めから全ての人々を対象に、適合するよう考える共用設計
- 福祉用具をもとに一般化した福祉目的の設計



みんなが使いやすく、楽しくなるように、 みんなで考えると、「共用品」が生まれるんだ。

みんなの気持ちと知恵がたくさん集まると、一般製品や福祉用具をもっと、みんなに便利なモノにすることができるね。
そんなふうに工夫された製品のことを、「共用品」と呼ぶんだよ。

みんなが大きくなったころには、もっと「共用品」がいっぱいになって、みんなで、いっしょに、いろんなことができるといいね。

耳の不自由な人や
耳の遠くなったおじいちゃんにも
わかりやすい、うれしい工夫

テレビの字幕放送



耳の不自由な人にもうれしく、
話してはいけないところでも
大切な用事がわかるうれしい工夫

携帯電話の
着信を知らせる振動や
メール



「共用品」ワールドを
大きく育てましょう。

みんなの気持ちや知恵をそそいで、
共用品を大きく育ててほしいんだ。
そして、もっと多くの人に、
共用品の大切さを伝えに行こうよ。

耳の不自由な人や目の不自由な人、
文字が読めない人にももうれしい工夫

音声や文字・絵の両方による、
お知らせや誘導のためのご案内



背が低い人や車いすの人も
使いやすい工夫

郵便局や銀行などにある、
低い筆記台



段差がこわい
ママや車いすの人のための工夫

駅などにあるゆるやかなスロープ



みんなも「共用品」を思いついたら、ファックスやメールを送ってね。

いろいろな「共用品」を見てきて、どう思ったかな?
困っているときには、みんなで助け合うことが大切だし、
みんなで使える「共用品」があれば、みんなで楽しくなるってことがわかったよね。
今度は、みんなで、新しい「共用品」を考えてみようよ。
みんなからのアイデアやおたより、お待ちしております。

送り先
財団法人 共用品推進機構
FAX.03-5280-2373 e-mail: jimukyoku@kyoyohin.org
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-5-4 OGAビル 2F
TEL.03-5280-0020 http://kyoyohin.org/
発行:財団法人 共用品推進機構 制作協力:株式会社 クリックス

先生方、及びお家の方へ

共用品推進機構は、1991年から自主的な活動を続けてきた市民団体「E&Cプロジェクト」を発展的に解散し、1999年4月に設立した公益法人です。共用品・共用サービスの開発と普及を目的に、不ばさ調査、配慮点の検討を含む多角的な活動を行っており、この冊子発行もその活動の一環です。
※この冊子は、日本児童教育振興財団からの助成を受けて制作されました。